FDのための情報技術研究講習会開催結果の概要

1. 参加状况

開催日: 令和5年2月27日(月)(Zoom 会議室)

参加者: 60名·42大学2短期大学 (前年度95名·61大学4短期大学)

2. 研究講習会の目標

学生一人ひとりの可能性を最大限に伸長する学修者本位の教育への転換や、教育の質向上・高度化を目指した対面授業とオンライン授業を効果的に組み合わせた新しい学びの創出を目指して、授業の質保証のためのオンライン活用法、反転授業を中心とした対面・オンラインの組合せ授業、教材作成、ICT活用などについて、基礎的な理解を深め実践できるようにするため、「全体会」と「ワークショップ」を設定した。

3. 実施結果

(1) 参加教員全員を対象とする全体会では、「授業の質保証のためのオンライン活用法」、「対面とオンラインを効果的に組合せる反転授業の方略」、「授業資料・オンデマンドコンテンツにおける著作権法上の注意点」について説明を行った。

参加された教員から全体会の感想としては、「今回は、授業方法、反転学習、法的側面についての包括的な話とワークショップで多くのことを勉強できた」、「反転授業を始めコロナ後の大学を取り巻く授業手法の動向がよくわかりためになった」、「なんとなく肌で感じていたことを、裏打ちされたデータで解釈した説明を拝聴することで整理がついた」、「反転授業はやってみたいと思いつつ導入するに至らなかったが、1科目の1コマから始めてみよう、という考えを教えてもらい、なるほどと思った」などが寄せられた。

(2) ワークショップの達成度を以下に掲載する。(アンケート回答者23名)

ワークショップ名	達成できた	見通しがたった	達成できなかった
① 動画教材作成の紹介	2割(1人)	6割(3人)	2割(1人)
② 反転授業のデザインと予習動画制作	2割(2人)	8割(8人)	
③ 対面・オンラインでの ICT 活用	1割(1人)	9割(6人)	
④ ハイフレックス授業のデザインと方法	1割(1人)	7割(5人)	2割(2人)
⑤ オンラインで多職種連携教育を始めよう		10割(5人)	
⑥ オンライン授業の学修評価方法、経済系授業の学修評価実践	2割(2人)	8割(7人)	

- (3) 以下にワークショップ参加者からの特徴的な感想を紹介する。
- ① **動画教材作成の紹介**は、「自分で操作しながら話を聞くところまでいかなかったが、すぐに録画や資料を見直して字幕の付け方を習得したい」、「字幕を付けることについて、その方法が勉強になった。ゼミナールなど一部の授業で取り入れたいと思う」などの感想があった。
- ② 反転授業のデザインと予習動画制作は、「自分の授業でも実践できそうだと思った」、「医学部でシミュレーション教育を実施する上で、効果的な学修(実習)をするための知識習得の事前学習に提案しようと思う」、「反転授業(予習)をすることで、授業では何をさせて知識の定着の確認や応用になるのかを考えなければならないことがわかり、インストラクションデザインという面でも良い勉強になった」などの感想があった。
- ③ 対面・オンラインでの ICT 活用は、「2D メタバースを実体験でき貴重な体験でした」、「ブレイクアウトの 議論で、同様の問題を抱えている教員が多いことが分かり安心した」、「期待通りの講習会の設計コンセプト と講師陣と参加者のみなさんでした」などの感想があった。
- ④ ハイフレックス授業のデザインと方法は、「既にハイフレックスに取組み LMS を効果的に活用している教員と、視覚・聴覚など違和感のない、オンラインと対面のハイフレックス教育空間を創造したいという思いを共有できたことが良かった」、「意見交換は有意義であったが、悩みを打ち明け合うところで時間がきて、知的な活動に進まなかった」などの感想があった。
- ⑤ オンラインで多職種連携教育を始めようは、「多職種連携の授業の企画は、やはり準備が大変だと改めて思い、方向性が見えたように思う」、「自大学での実習シラバスの内容が不足していることに気づき、目標の設定、成果、評価方法が明確に示されていると学生も教員もわかりやすいと思った」、「なかなか連携が取れない分野の教員がどのような動きをしているのか、わかり大変参考になった」などの感想があった。
- ⑥ オンライン授業の学修評価方法は、「自分自身で試行錯誤するだけでしたが、実践例を伺うことができ、客観視するきっかけをいただいた」、「自分の授業でインストラクションデザインができているのか、改めて考えなおす良い機会となり、授業の改善につながれば良いと思った」、「シラバスの目標と評価について、他大学のシラバスを見ながら意見交換できたので、とてもためになった」などの感想があった。